

(5) 東海



東海地域では、景気は弱まっている。

- ・ 鉱工業生産は減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は悪化しつつある。

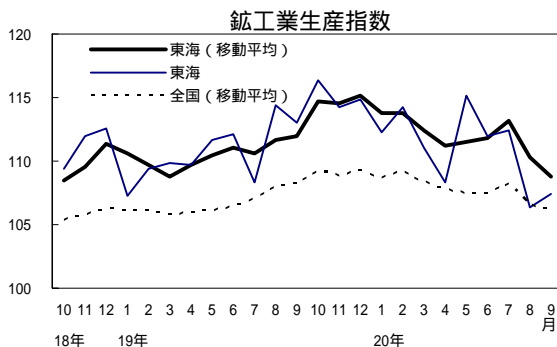
前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年8月）	今回（平成20年11月）	
景況判断	回復の動きに足踏み	弱まっている	
鉱工業生産	おおむね横ばい	減少	
住宅建設	減少幅は縮小	大幅に増加	
雇用情勢	改善の動きに足踏み	悪化しつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。

輸送機械は、乗用車が欧米向けを中心に減少しているほか、自動車部品が海外向けで伸び悩み、減少している。一般機械は、金属工作機械が弱含み、減少している。電子部品・デバイス、半導体素子・集積回路が記憶素子（メモリ等）の市況の影響で弱含んでいる。プラスチック製品は、プラスチック製フィルムが増加しており、おおむね横ばいとなっている。化学は、医薬品が増産したことから、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	37.5	1.1	2.8	3.0	2.1
一般機械	12.7	0.8	3.4	4.6	4.6
電子部品・デバイス	6.8	0.2	8.5	6.6	35.8
プラスチック製品	5.4	2.5	0.1	0.7	2.3
化学	5.0	3.6	2.8	5.3	2.4
鉱工業	100.0	0.6	2.8	3.7	2.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

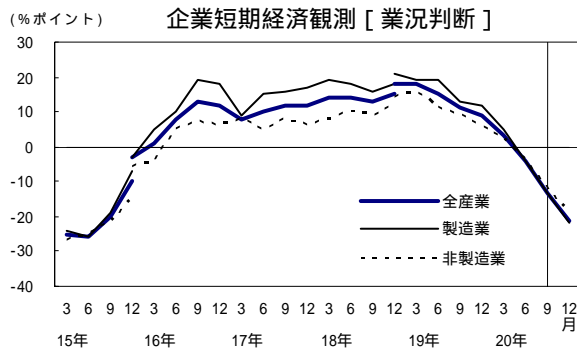
2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

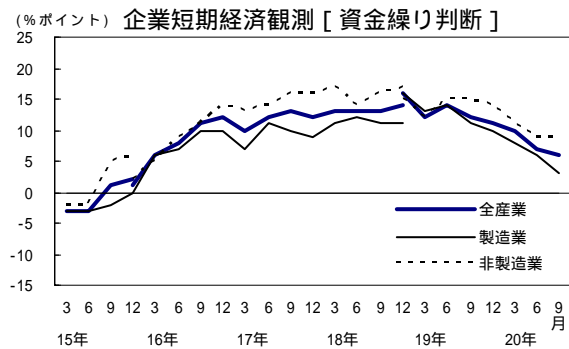
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅がおおむね横ばいとなっている。

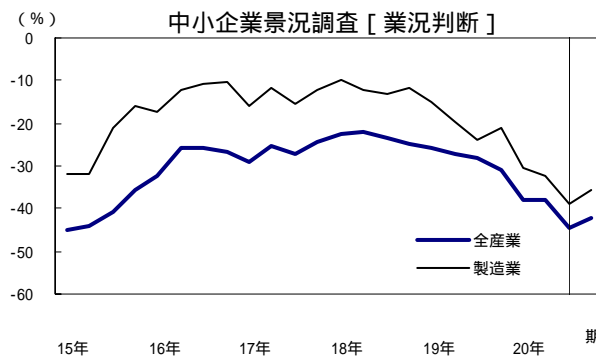
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年12月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

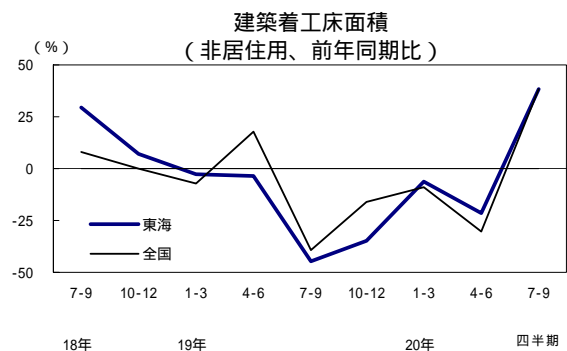
「大手製造メーカーにおける輸送物量の減少が、徐々に下請や孫請に広がっている(輸送業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	6.4	1.8 [3.3]
製造業	0.4	1.2 [2.0]
非製造業	18.2	2.8 [5.5]

(備考)[]は前回(6月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

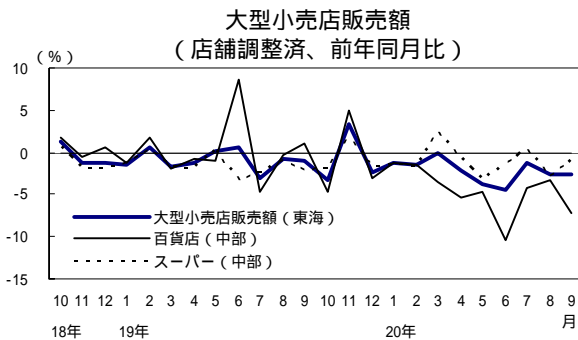
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、猛暑で夏物商材に動きがみられたものの、客足が伸びず飲食料品が前年割れとなったほか、クリアランスセールが部分的で高額品の動きが鈍く、前年を下回った。8月は、下旬の天候不順で客足が伸びず、衣料品が高額品を中心に不調で、前年を下回った。9月は、一部店舗で前年に家具等が大きく伸びた反動がみられたほか、衣料品が振るわず、前年を下回った。なお、中部百貨店協会によると、名古屋市内の10月の売上高は、前年同月比で8.3%減となっている。

スーパーは、飲食料品はおおむね横ばいで推移したものの、衣料品が不調で、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「工場の減産や残業抑制のため、冬のボーナスを見てから決めようという客が増えている(住宅販売会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

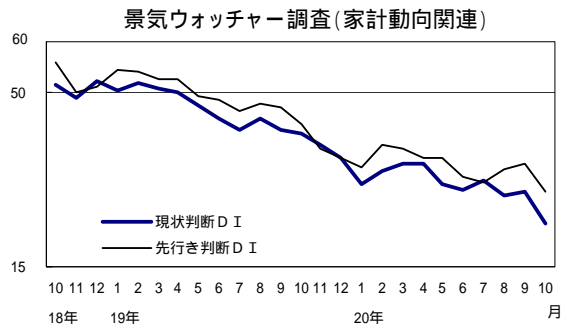
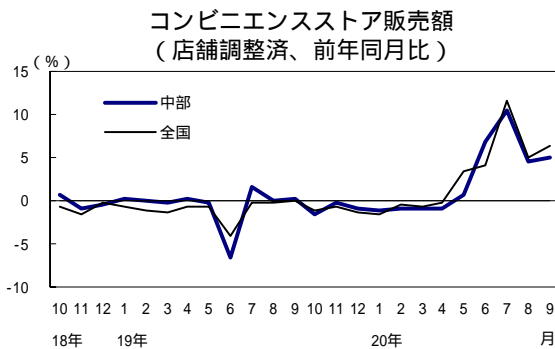


	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	0.8	0.9	3.5	2.2
百貨店	1.2	2.1	6.9	4.9
スーパー	0.7	0.3	1.8	1.2
コンビニ	0.8	1.0	2.2	6.7
景気ウォッチャー	39.3	33.8	32.4	30.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。

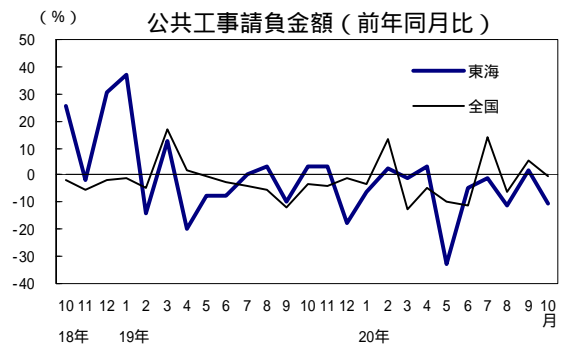
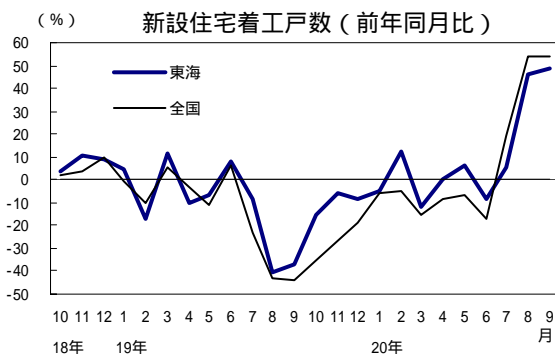
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いいため、貸家を中心に大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

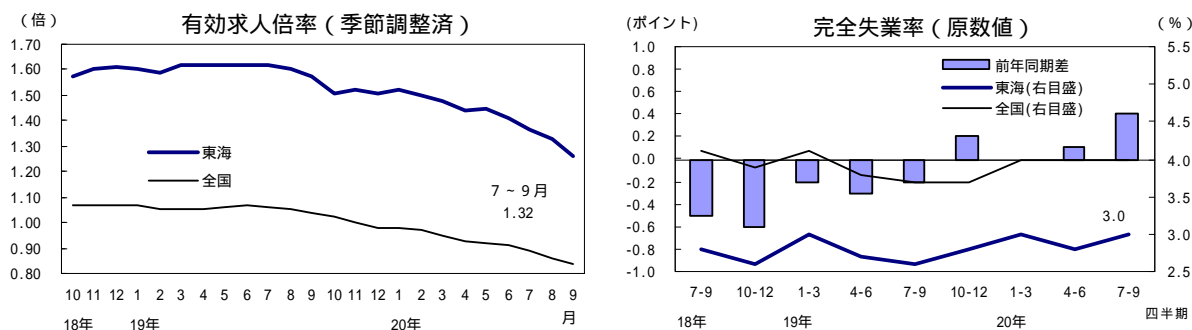


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

「円高で製造業地域の求人広告の動きは急速に悪化している。派遣、請負への需要の大幅減から契約解除が続いている。県外資本の派遣会社が複数撤退するなど、雇用の悪化が顕著になっている (新聞社 [求人広告])」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

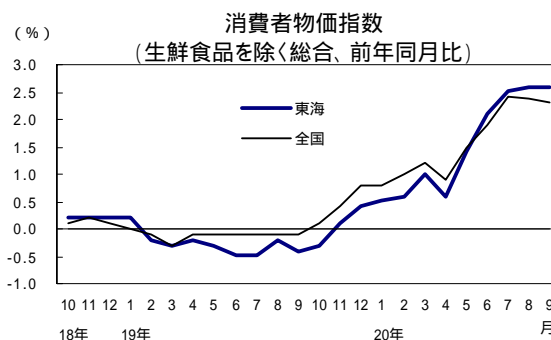
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

10月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月	20年10月
倒産件数	332	343	332	345	126
(前年比)	2.8	7.5	8.1	1.1	1.6
負債総額	750	1,012	1,359	744	395
(前年比)	20.1	14.2	80.0	62.6	145.6



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・原材料価格は、4月と10月に大幅値上げが行われた。4月分は価格転嫁できたが、10月分の価格転嫁は困難である (電気機械器具製造業)。

<先行き>

・高速道路料金の値下げにより、国内旅行の需要は多少増える。円高に伴う海外旅行の需要増も期待されるが、先行きを不安に思う客が多いため海外旅行は伸びない (旅行代理店)。

